

林業研究・技術開発推進ブロック会議育種分科会と特定母樹等普及促進会議を開催

令和2年9月から10月にかけて、林業研究・技術開発推進ブロック会議育種分科会が、林野庁、(国研)森林研究・整備機構共催で開催されました。この会議は、林野庁、林木育種センター、都道府県等の連携による林木育種の推進を目的として毎年、北海道、東北、関東・中部、近畿・中国・四国、九州の5ブロックで開催されています。今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、オンライン開催、メール開催等の方法で行われました。林木育種センターからは、優良品種の開発・普及の状況等に加え、用土を用いずミスト散水でさし穂を発根させるさし木手法の開発、「無花粉スギ普及促進のための技術マニュアル」を作成したこと等について説明しました。

関東・中部ブロック会議育種分科会では、例年室内協議の翌日に現地検討が開催されていましたが、今年度はオンライン開催のため、プレゼンテーションによる方法に変更し、福島県からスギ特定母樹採種園の種子生産状況や東日本大震災からの海岸防災林の復興状況について紹介いただきました。

特に、福島県ではクロマツ採種園の造成を平成18年度から始めていたため、震災直後の平成23年度から種子生産を開始できたものの、620haにも及ぶ海岸防災林の造成を行うには、クロマツ種子が足りず、平成27年度までは県外から提供された種子も利用していたことや、クロマツ種子不足からアカマツ苗木の生産も進められたものの、クロマツより潮風に弱いアカマツ苗木が敬遠され余ったことなどについて、紹介がありました。

また、北海道、東北、近畿・中国・四国ブロックについては、この会議と併せて特定母樹等普及促進会議を開催し、特定母樹の普及等について議論を行いました。なお、関東地区特定母樹等普及促進会議は7月にオンラインで開催し、主にヒノキ特定母樹等を普及するための取組について、林野庁、都県等の関係機関、民間事業者が参加し、意見交換を行いました。

表紙タイトル写真

ケニアの郷土樹種メリア *Melia volkensii* の無性繁殖(根ざし)の効率化試験(場所:西表熱帯林育種技術園)

みどりの女神が林木育種センター、森林バイオ研究センターを視察

令和2年9月8日、2020ミス日本みどりの女神 井戸川 百花(いどがわ ももか)さんが当センターを視察しました。

残暑厳しい中、エリートツリーやジーンバンク事業等、当センターが誇る事業・研究の視察から始まり、エリートツリーの樹高を樹高測定器で測定したり、シークエンス解析室では、実際に白衣を着てDNA実験を体験してもらいました(写真1)。

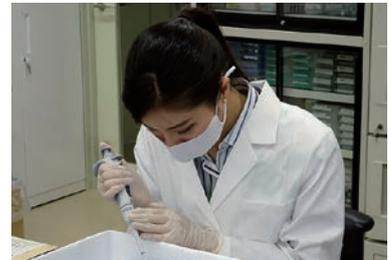


写真1 実験体験の様子

井戸川さんからは、「長年にわたる研究は、現場を助けるために行われており、より良い品種を作りあげることが、日本の森林を作っていることを実感しました。」とのメッセージをもらい、職員一同、改めて業務に励んでいく事を心に誓いました。



写真2 コンテナ苗と井戸川さん

本記事の詳細は、当センターホームページにある「林木育種の現場から」に掲載しています。

(企画部 育種企画課 橋本 光司)

林木育種情報 No.35

令和2年11月26日発行

国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 林木育種センター
〒319-1301 茨城県日立市十王町伊師 3809-1

TEL: 0294-39-7000 (代)

FAX: 0294-39-7306

ホームページ <https://www.ffpri.affrc.go.jp/ftbc/index.html>